

フレンドリーな関係からパートナーとしての関係へ

— コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な推進 —

山形市教育委員会 教育長 荒澤 賢雄

山形市の小学校・中学校、両校長会誌に寄稿するにあたり、会員各位の今年度一年間のご尽力とご苦勞に対し、心より御礼を申し上げます。とりわけ、今年度末でご勇退なされる校長先生方には、永年にわたる山形県並びに山形市の教育に対するご貢献に衷心より敬意と感謝の意を表します。今後とも山形市の教育の充実・発展にお力添えを頂ければ幸甚に存じます。

さて、来年度は、山形市立のすべての小中学校にコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）（以下CSと記載）が導入され、学校、家庭、地域が互いに信頼し合いながら力を合わせ、それぞれの立場で地域の子どもの成長を支えていく、地域とともに歩む学校づくりが本格的にスタートします。

振り返ると、平成30年度から第九小学校、西山形小学校、蔵王第一中学校の3校にCSの先行研究を行っていただきました。それこそ3校三様の実践が行われ、それぞれに大きな成果が得られました。

令和元年度には研究委嘱校の実践検証を受けて、CSに係る教育委員会規則の制定と学校運営協議会委員の特別職としての身分や報酬に係る条例改正を行い、令和2年度から研究委嘱校3校に正式にCSが導入されたところです。今年度は、これまで学校評議員制度を導入していた学校を中心に37校にCSが導入されます。そして、令和4年度に11校にCSが導入され、CSの全校導入が完了します。

本市では、CSと地域学校協働活動を別々の活動として取り組むのではなく、一体的に進めていきたいと考えています。そのために、地域住民と学校との連絡調整を行うコーディネーターである地域学校協働活動推進員を各学校の学校運営協議会等からの推薦により選任し、互いの活動のつながりや関連性が実質的に図られるようにしてまいります。

CS並びに地域学校協働活動は、学校と地域が連携・協働して未来を担う子ども達の成長を支えていくと同時に地域の活性化を図り積極的に地域を創生していくことが大きな目標です。この目標に向かって活動する中で、成果として、すべての学校が、これまで以上に地域の方々の理解と協力を得た学校運営が日常的に行われていくことを願っています。

具体的には、次のような学校の姿が見られることを期待しているところです。一つは、学校がめざす子どもの姿、育てたい子どもの資質や能力を地域と共有し、社会（地域）に開かれた教育課程を実現する学校の姿です。二つ目は、子どもを取り巻く状況がより複雑化し、多様化し、困難化していることを踏まえ、学校と家庭の連携だけでは解決が困難なことに対して、地域の力や知恵・経験を積極的に求めていく学校の姿です。三つ目は、地域には、様々なことに長けた人材がおられます。英語が堪能な方、運動技能に優れた方等々。地域人材の活用について熟議し、地域の総意のもと、教職員の働き方改革に資する学校の姿です。四つ目は、子どもと向き合う時間を増やし地域の教材化を積極的に進める先生方、子ども達とのかかわりを通して生きがいや喜びを味わう地域の方々、地域のかかわりと見守りの中で安心感をさらに深める保護者の皆さん、そして、信頼できる大人の中で自己肯定感を持ち、豊かな心を育み地域への愛着を深める子ども達。そんな大人達と子ども達の変容を穏やかに育む学校の姿です。他にも多様で多彩な学校の姿が見られることを楽しみにしています。

結びになりますが、今後、CSと地域学校協働活動を一体的に推進する中で、学校と地域は、単に良好なフレンドリーな関係から、互いに必要とするパートナーとしての関係まで高めていく必要があります。今後とも、校長先生方のビジョンの提示と指導力の発揮をどうぞよろしく願いいたします。